

## 人を幸せにする縁 なっていきたい

西条教会 西原聖乃さん

高校生の西原聖乃さんは、部活も帰り道も一緒のAさんと、あることから衝突してしまい葛藤を抱えていた。そんなとき、仏教の「縁起」の教えを学ぶなかで「自分が変われば、相手が変わる」という言葉を聞き、実践すると、Aさんとは親友と呼び合える仲になった。2019年3月に教会の研修でフィリピンを訪れた時、現地の人と対話をする機会があった。聖乃さんの片言の英語に一生懸命に耳を傾け、身振り手振りを交えて語りかけてくれた。その姿に、相手の気持ちを受けとめて、思いやりをもって言葉を交わすことの大切さを実感し、聖乃さんは「Aさんともめる前の私は、表面的にうまくやることだけを考えていました。でもいまは、自分の本当の気持ちを話し、相手の言葉の奥にある気持ちを大切にしています」と語る。身近な人と幸せになり、その笑顔の輪が広がっていく光景を思い浮かべ、聖乃さんの心は弾んでいる。



## 弁を尽くす

聖書の「ヨハネによる福音書」は、「初めに言があった」という有名な言葉で始まっています。確かに、言葉を使うことによつて、私たち人間の心は成長・進化してきたといえるのではないのでしょうか。人間が生まれもつて授かった心、すなわち「人」としての素朴な感情や意思を、言葉を使つてまわりの人に伝え、コミュニケーションを繰り返すなかで「人間らしい心」が育ってきたということなのです。

では、人とよりよい関係を築くために、私たちは何をどのように話し、伝えることが大切なのでしょう。

法華経の経典によるとその伝え方とは、「人びとの心に喜びを与え」「対話する相手一人ひとりの受けとめ方をよく理解し」「大切なことをだれにもわかるように」など、人にまねのできないようなことではなさそうです。

ただ、ハードルが高いと感じるのが、「大切なことをだれにもわかるように」という部分ですが、私たちは、自身の体験であれば自分の言葉で語るができます。味わった感動や気づきならば、素直に話せます。「ありがたい」「うれしい」という気持ちとともに、自分の理解に応じて話すことが、「大切なことをだれにもわかるように」伝えることなのです。今年、あなたはどのような感動を味わったのでしょうか。そして、どんな「大切なこと」を人にお伝えしますか。

# 立正佼成会